

## 岩手県教職員組合カリキュラム検討委員会からの提言「学校あるある」を見直す ④

### ～働き方改革の風を職員室で吹かせよう～

年度末の慌ただしさと多忙化をみんなで解消！

### 『要録』を考える

カリキュラム検討委員会で衝撃が走った話題！

ある都道府県からの転校生の要録の所見が、なんと四字熟語！

小学校では、「生活・学習」の所見のみだった時代から、学習指導要領が改訂されるたびに、「総合的な学習の時間」「外国語活動」そして今度は「道徳」と文章評価の所見が増え続けています。教科数の多い小学校高学年の担任はもはや限界です。高校の受験指導や進路事務等がある中学校でもそれは同様です。3学期の通知表作成でホッとしたのも束の間、「指導要録」の記録作業も従来通りで行えば、長時間労働に拍車がかかります。

他の単組から、カリキュラム検討委員会発刊の「学校改革討議資料」を読んで、岩教組が発信している通知表の提案が素晴らしい！と問い合わせがありました。併せて要録の所見の記入についての問い合わせがありました。



#### ある県の現状は・・・

行事名やその行為の具体まで記入しています。業務削減を少しでも進めたいのに、研修会での大学教授の話がきっかけとなり、通知表の所見が肥大化していくことに・・・。

「要録の所見を四字熟語に」とまでは、言いません。ただし、過剰に密度の濃い所見で自己満足仕事！とならないよう、県北のある小学校では、以下のように要録の記載を変えました。

- 所見は、箇条書きで記入
- 文章で記入したとしても、一行程度
- 例)「放送委員として、昼の放送当番を責任をもって行った。」
- ICT化による業務削減 など。

「業務削減が進まないから毎日が超過勤務つづき」と言ってばかりでは、何も変わりません。実は学校の裁量で「変えていける」ことも多いのです。年度末は、要録の記入について変えてみませんか。